

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立南川副小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

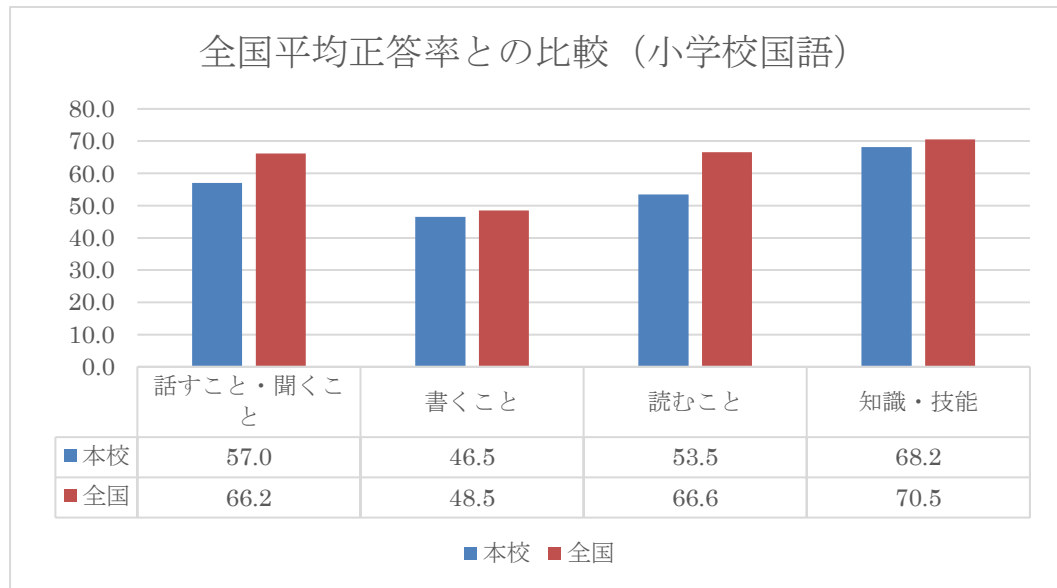
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

どの領域も全国平均を下回る結果でした。「書くこと」「知識・技能」は、ほぼ全国平均正答率とほぼ同等です。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、すべての項目で全国平均を下回りましたが、「知識・技能」「書くこと」が全国平均正答率とほぼ同等で、普段の漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける」や「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」は全国平均を上回っていました。児童の誤答を調べてみると長文の内容や質問の意味を読み取ることができていないことが分かります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

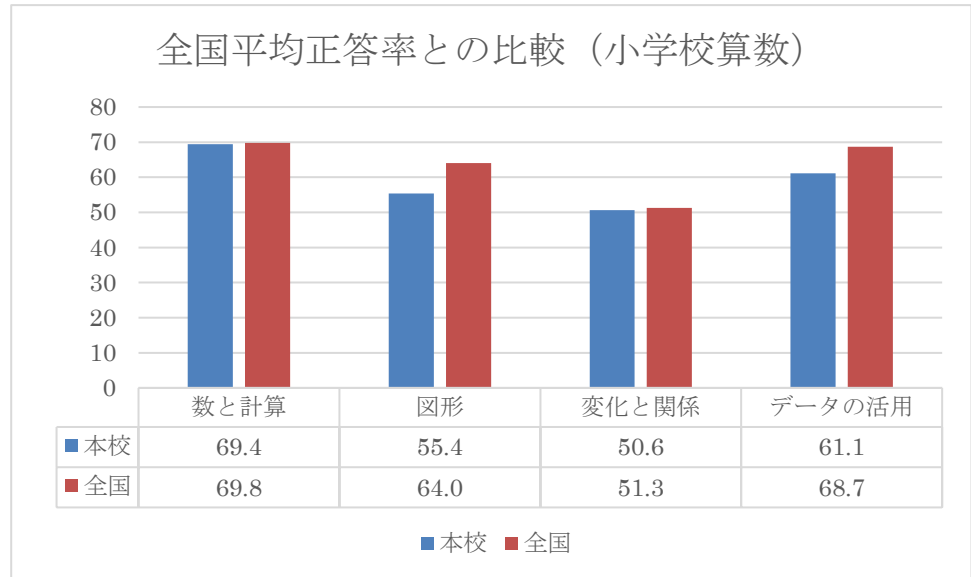
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、目的意識、相手意識をもたせた単元を工夫します。また南川副小型授業での授業改善に努め、めあてをもち、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 学び合いの基礎となるスピーチタイムと授業とを関連付けながら、対話力の向上を図っています。
- 始業前（8:00～8:15）に読書タイムを設定し、読書の機会を増やしています。
- 問題を読んで目的や意図を正確に読み取り、根拠となる文や言葉を明確にししながら自分の考えを書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、「ことバンク」や「光る言葉」など言葉集めの学習に一層力を入れ、語彙力を増やします。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数



(1) 結果

「数と計算」と「変化と関係」は、ほぼ全国平均と同等の結果でした。「図形」「データの活用」の領域で全国平均を下回っています。

また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「C 変化と関係」の領域で比例を使って未知の数の求め方と答えを記述する問題で正答率が全国平均正答率を16.3ポイント上回っていました。また、「A 数と計算」の領域の、示された場面を解釈する問題の正答率も全国平均正答率を上回っていました。今回、プログラミングに関する問題が出題されました。示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ問題は、全国平均正答率を上回っていましたが、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き換える問題は課題が見られました。プログラミングに関しては、一人一台端末を活用して今後も指導の充実を図ります。

今後、日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れます。自分の考えを書き、それをペアやグループ、全体で話し合い、振り返らせることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

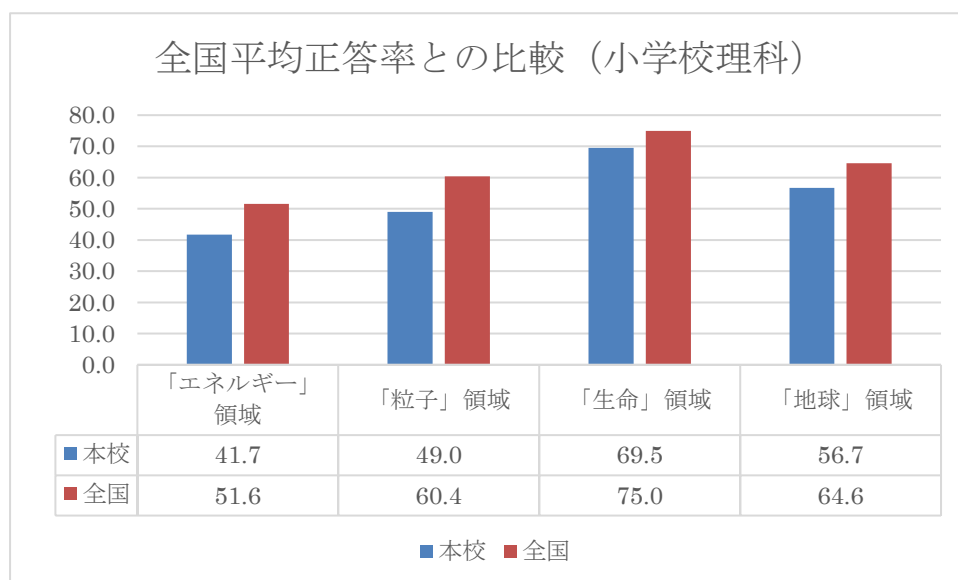
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を相互に関連付けさせるようにします。
- 朝のスキルタイムやチャレンジスクール（希望者）では、計算問題等を集中して取り組ませ基礎・基本の力の定着を図っています。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさんの励ましや称賛の言葉をかけてください。そうすることで、お子さんが自信をもち、やる気が高まります。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかしな割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 理科



(1) 結果

どの領域も全国平均を下回る結果でした。無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「生命」の領域の観察の記録が誰のものであるかを選ぶ問題の正答率が全国平均正答率とほぼ同等でした。また、実験器具の名前を問う問題や、光の性質の基礎的な問題では、全国平均正答率とほぼ同等で基礎的・基本的な知識・技能の定着は見られました。

自然現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えを記述する問題が全国平均正答率を下回るなど、問題形式の「記述式」の問題で課題が見られました。

日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 目的意識をもった実験・観察を行うための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まっていきます。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上していきます。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・達成感・自己有用感について》

調査項目	本校% (昨年)	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	90.4% (94.6)	94.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	76.2% (75.6)	81.5%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	90.5% (89.2)	90.4%
自分にはよいところがあると思いますか。	73.8% (64.9)	79.3%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	81.0% (70.3)	72.5%
将来の夢や目標をもっていますか。	71.8% (62.1)	79.8%
学校に行くことは楽しいと思いますか。	90.4% (78.4)	85.4%

朝食は前年度と比べ下がっています。朝食・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきたいと思います。

挑戦心や達成感・自己有用感の項目については、全国平均で比べると下回る項目もありますが、どれも前年度よりも高くなっています。学校目標である「自分を磨く子どもの育成」に向けて、全職員が共通理解・共通実践して取組んだ成果が見られてきています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校% (昨年)	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	59.5% (78.4)	71.1%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	2.4% (5.4)	11.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	11.9% (21.6)	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	45.2% (45.9)	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	21.4% (18.9)	25.8%
「30分より少ない」	14.3% (8.1)	10.5%
「全くしない」	4.8% (0)	4.2%

「計画を立てて勉強をしていますか」が全国平均よりも下回っていました。勉強時間については全国平均とほぼ同等です。まだ1時間未満（6年生は70分が目標時間）の児童が4割近くいて、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、音読や漢字、計算ドリルの宿題と、各学年で目標時間に応じて自学や読書など宿題を出しています。
- 「家庭学習がんばり週間」を実施し、自分で計画を立てて、目標の学習時間を達成できるように努めています。また、「生活振り返り週間」では、チェックカードで生活を振り返り、できたことを褒めることで効果が現れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目は、改善を図ろうと「生活振り返り週間」でも取り上げている項目です。「生活振り返り週間」だけでなく、規則正しい生活と家庭学習の定着することは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず褒めることで、意識が更に高まります。
- 「家庭学習のてびき」をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。